



町田樹さん



高橋大輔さん

第22回オリンピック冬季競技大会

最後まで 戦い抜いた

ソチ五輪・フィギュアスケート男子シングルで 町田樹さんが5位、高橋大輔さんが6位に入賞!

日本時間で2月14・15日に行われたフィギュアスケート男子シングルで、体育会アイススケート部の町田樹さん(文4)が5位、高橋大輔さん(文学研究科M2)が6位入賞の成績を収めた。

15日のフリー、高橋さんはショートプログラム(SP)4位から挑んだ。冒頭の4回転ジャンプは両足着氷となったものの、その後は伸びやかな滑りを見せ、世界一と称される華麗なステップを披露。笑顔を見せながら、攻めの姿勢で演技切った。

高橋さんは、2006年トリノ五輪で8位入賞、2010年バンクーバー五輪では日本男子初の銅メダルを獲得。今回で、日本フィギュアスケート史上初の快挙となる3大会連続出場を果たした。日本フィギュア界を長くリードし、集大成として迎えたソチ。スケート人生への感謝の気持ちが伝わってくる演技だった。

一方、五輪初出場となる町田さんは、SP11位からフリーでの巻き返しを狙った。団体フリーに続き、「ソチの空に天高く舞い上がりたい」との想いを込めて『火の鳥』を熱演。完璧な踏み切りと姿勢で跳んだ冒頭の4回転ジャンプでまさかの転倒があったが、次の4回転は見事に成功。ジャンプやスピンのなどで、力

強く躍動感あふれる演技を貫いた。

高橋さん、町田さんの五輪出場に先立ち、1月8日には、千里山キャンパスで壮行会が開催された。楠見晴重学長をはじめ、学生や教職員ら約1000人が参加し、世界で戦うアスリートに大きな声援を送った。

また、フリー当日には、千里山キャンパスで応援会が行われ、チアスティックや国旗を手にした約350人もの学生や教職員らが「オール関大応援団」として巨大スクリーン前に集結。ジャンプが決まるたびに「やったあ!」「よしっ!」と歓声を上げ、ソチへ向けて大きな拍手と熱いエールを送った。



壮行会での町田さん(左)と高橋さん 熱い声援を送る関大応援団

◎ 文部科学省ミュージアム「情報ひろば」で、企画展示を開催

古代エジプトの文化財の修復と研究 ～異文化理解と文理融合型の複合的・総合的研究の取り組み～

2013年12月から2014年3月まで、文部科学省ミュージアム「情報ひろば」(東京都千代田区)において、「古代エジプトの文化財の修復と研究」をテーマとする関西大学の企画展示が開催されている。

関西大学は、文学部の吹田浩教授を中心に、世界遺産に登録されている古代エジプト時代最大の墓域サッカラにある王女の墓「イドゥートのマスタバ墓」の調査を続けている。同墓は、エジプト最古の代表的な墓の一つ。特に地下埋葬室の壁画が美しいとして名高いが、4300年もの経年劣化により危機的な状況にあるため、日本の文化財科学の技術を活用すると共に、地盤工学や建築工学、抗菌抗微生物学、化学分析などの技術を結合した保全活動に取り組んできた。

今回の企画展示は、文化財の劣化過程やその原因を解明し、どのような対策をとるべきかという視点から、科学的見地と国際感覚を養うことが目的。イドゥートのマスタバ墓やサッカラ遺跡の概要や壁画修復過程を3D映像などで紹介している他、4300年前と同じ技法で復元した古代壁画のレプリカの展示や、エジプト学を中心とした異文化理解と共に、さまざまな技術を結び付けた文理融合型の研究活動のパネル展示を行っている。



1. 古代エジプトの文化財保護を行う研究活動をパネルで紹介
2. 地下埋葬室の壁画の復元レプリカ
3. モニターでは遺跡の概要や壁画修復過程の3D映像を紹介



▼ 関西大学【世界最古の壁画救出までの歩み】

- 2003年—「日本・エジプト合同マスタバ・イドゥート調査ミッション」として文化財保存修復の研究をスタート。
- 2008年—文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択され、関西大学文化財保存修復研究拠点(ICP)を設立。
- 2013年—文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択され、関西大学国際文化財・文化研究センター(CHC)を設立。日本・エジプト・ポーランドの合同研究で古代エジプトの文化財における修復技術の開発を推進中。

●2014年4月、大学院人間健康研究科を開設 健康運動や体育スポーツの指導者、 地域福祉の実践者を育成

2014年4月、関西大学は新たに人間健康研究科を開設する。人間健康学部が2010年に大阪府堺市に誕生して以来、堺市民と健康で豊かな生活を共有するために、さまざまな支援・連

携事業を展開し、積極的な地域貢献活動を行ってきた。

研究科設置は、人間健康学部の実績を踏まえ、地域貢献型の性格を継承しつつ、より高度な研究教育を行うことが目的。高度専門職としての健康運動や体育・スポーツの指導者、地域福祉の実践者の育成、あるいは学際的かつ実践的視野を持った研究者の育成を通じて、現代社会が直面する課題に取り組み、解決へと導くことを目指す。また、堺市からは、専門性の高い人材の育成による地域発展と活性化への貢献に期待が寄せられている。